

何が駐妻の「働く」を妨げるのか

*フリーコメントより抜粋(より障壁度合いが高いと思われるものから順に記載)

<ビザ、労働関係の規定(※)>

(※)国や地域、配偶者の仕事内容等によっても事情が異なるため、就労に当たっては各自で規定等をご確認ください。

- ・帯同ビザでは働けない国のため、**就労ビザ**に切り替えて就職するしかなく、労力と時間がかかり大変だった。
- ・帯同ビザでの就労ができなかったため夫の会社のサポートを断って**自分でビザを取得**した。
- ・**就労ビザ**を取得済みという条件での現地求人が多かった。
- ・日本の仕事をリモートで行うなど、現地企業以外での就労には**フリーランス資格の取得が必要**で、就労を断念。
- ・ビザや納税の関係で就労を断念した。ビザを切り替えずに働くのは強制帰国などのリスク。
- ・無許可で講師業をしていると密告された人がいた。

<配偶者の職場の規定>

- ・周囲では、配偶者の勤務先の許可が得られないことが多い様子。
- ・配偶者が帯同先で就労できない規定があるらしいが、その文書を実際に見た事はなく、制限の範囲や詳細が分からない。
- ・扶養内でしか働けないため、お小遣い稼ぎのように思えて辛い。
- ・扶養を外れると夫の職場からの各種サポートが受けられなくなるので、働くモチベーションが削がれる。
- ・1円でも収入が発生する仕事をすると夫の会社からの渡航費・健康保険、家賃等の**家族手当が全て打ち切られる**。
- ・働けるVISAであるにも関わらず、前例を作りたくないため会社が**配偶者就業NG**としているのは社会的にも非常に時代遅れな規則で**今すぐ改善すべき**だと思う。
- ・配偶者の会社によって、仕事をしている方をよく聞くことも、海外で収入を得る行為は一切ダメとされているところもある。**夫の会社次第で妻の選択が狭まる**のは非常に勿体無い。
- ・配偶者ビザでも就労可能な国だったが、配偶者の会社の規定で帯同者の就労を認めていない、前例がないので人事担当者が対応に苦慮、対応が面倒なので労働を認めないということがあるのではと感じた。
- ・夫の会社の家族手当はすべてなくなったが、収入が上回ることで、夫と「海外就労経験ができるならむしろ投資すべき、サラリーが出るなんてラッキー」という方針を共有でき、楽しく勤務した。

<求人、勤務条件>

- ・帯同VISAでは**数年でいなくなる**ことが伝わり、採用されにくくなる。
- ・「駐妻は雇ってもすぐいなくなる・妊娠するとすぐ辞めるので困る。離職する可能性が高い駐妻をわざわざ雇うほど余裕はない。」という話を頻繁に聞いた。
- ・**パートナーの帰任時期**に左右される。求職者にとっても採用側にとってもハードル。
- ・**本帰国の際に仕事をまたやめなければいけない**のか等、就職後の不安もある。
- ・「帯同予定」「帯同先でも就労可能な勤務条件での採用を希望」と伝えて転職活動をしたところ、書類選考でかなり落ちた。特に比較的大規模な会社は社内規定運用の融通がきかないようであった。(前提条件がクリアになったのは小規模な会社だったが柔軟な対応で、面接時から勤務条件について詳細に相談でき、結果良かった。)
- ・外国人のオフィスワークは難しく、大半は介護、保育、飲食店、ホテルでの仕事。
- ・現地で就労しているが土日勤務メインを依頼され、家族との時間を合わせるのが大変。
- ・働きたい日時ではやりたい仕事なかった。

<語学力>

- ・現地語が必要な点が最大のハードル。
- ・**英語+現地語**が必要で、語学の面で就労ハードルが高い。
- ・円安なので日系以外で働きたいが、語学の壁がある。
- ・ローカルで働けるほどの**語学力を身に付けるには最低1、2年**はかかるので、そこまで労力を費

やす意義があるかどうか個人差が大きいと思う。自分はまずは語学力を上げることに注力し、帯同3年目で仕事を始めた。帯同期間が長ければローカルで仕事をするプランも立てられるが、短期間では就労はあきらめていたかもしれない。

<育児負担>

- ・現地の幼稚園、保育園にかかる費用がかなり高額。自宅保育にも限界がある。保育などの補助が欲しい。
- ・現地の保育料が1人月20万円、子ども2人で計40万。
- ・保育料、習い事など教育費全般が想定外に高額。
- ・日本とは事情の違う家事育児を考えると、働く時間も制限され、正社員並みに働くのは難しい。
- ・子どもの学習(日本語・英語)サポートに時間がかかる。
- ・育児、一時帰国、転居準備など、やるべきことがイレギュラーに入ってくるので安定した予定が立てづらい。親族も近くおらず子どもを預けるにもナニーさんを雇う必要がありハードルが高い。
- ・2回の帯同の間に出産育児も重なりブランク6年。語学力や高額な保育料がネックで働くにはまだ早いかもと感じる。

<時差>

- ・フリーランス。時差がネックで業務稼働率が上げられず、新たな求人にも応募できずしんどかった。
- ・日本企業の仕事をしているが、時差半日で体力的にもかなりしんどい。子どもがいるとなおさら大変。
- ・時差を考慮いただける企業で働いているが、時差のためにやれない仕事が多々あり大変もどかしい。

<資格>

- ・滞在国での資格(医療系)を取り直さなければならない。
- ・医療系の専門資格があるが、現地の資格や就業経験が必要で語学の壁もあるため、同じ職種は難しいリモートワークもかなりハードルが高い。一方、数年のブランクは勤め鈍り、帰国後に大きなハードルになり得ると感じる。

<自身の職場の規定>

- ・PE問題や規定などにより、元の会社で海外からのリモートワークは認められなかった(国内でのテレワーク率は80%以上の会社)。
- ・帯同前の仕事を海外からリモートで続ける選択肢もあったが、妊娠・出産の時期と重なるのではないかと会社側に思われ調整がうまくいかなかった。

<情報、ロールモデル>

- ・周囲に働いている駐妻もいなかったので工夫して働く手段も知れなかった。
- ・周りの駐妻は専業主婦ばかりで、キャリアプランについて相談できる人がいない。

<税金>

- ・税務への不安。
- ・法律、税金関係について確証がなく不安。
- ・税金のことなど分からないことが多く、ハードルが高い。

<物価差>

- ・円安も相まって生活は最低な気分。是が非でも収入と就労経験を得たい。
- ・家賃も日本より高額。現地で働く事で家計はマイナス。
- ・日本とのリモートワークによって得られる額が現地では半分程度の価値になってしまう。
- ・税金関係や社会保険料が日本からの仕事の収入を上回り、働いていても赤字。

<周囲との関係>

- ・ViSAや夫の会社の規定は早めに確認したが、周囲のコミュニティの反応で難しさを感じた。「駐妻の就業は無理なもの」「トラブルの元」という意識を持つ方もいる。
- ・駐妻の狭いコミュニティで変な噂が立ちそうで、働いていることは周囲に言えない。

・駐妻同士では働いていることを堂々と口外できない雰囲気もある。相談できる場があればありがたかった。

<心理的要因>

- ・規定のこと以外に、女性の自己評価の低さ、インポスター症候群(※)なども障壁では。
- ・初めての国で知り合いを築いていく経験や不安についても着目してほしい。

(※)自分の力で何かを達成し、周囲から高く評価されても、自分にはそのような能力はない、評価されるに値しないと自己を過小評価してしまう傾向のこと。